

2. AYA世代における乳がん画像診断のポイント

北野 敦子 聖路加国際病院腫瘍内科

AYA世代(15～39歳)の乳腺疾患

1. AYA世代の乳がんの位置づけ

思春期・若年成人期 (adolescent and young adult 期) を、英語の頭文字をとり AYA 世代と呼ぶ。AYA 世代の年代の定義は国によりさまざまだが、本邦では15～39歳までと定義されている。AYA 世代は壮年期、小児期の狭間にあり、これまで十分ながん対策が行われていなかった。そのため、2018年3月に閣議決定された第3期がん対策推進基本計画では、AYA 世代のがん医療の充実が1つの重要な施策として掲げられており、現在、国や都道府県、医療機関において対策が講じられている。

AYA 世代に発症するがんの年齢階級別罹患率は、10万人に対し、15～19歳

で14.2、20歳代で31.1、30歳代で91.1 (人口10万人あたり) と言われている¹⁾。がん種の内訳としては、思春期 (adolescent 期) 世代では小児に多いがん種である、血液がん、脳腫瘍、胚細胞腫瘍といった非上皮癌が多いのに対し、若年成人期 (young adult 期) では乳がん、子宮頸がんなどの上皮癌が増え、乳がんは30～39歳の年代で最も罹患数の多いがんであると報告されている (表1)。

2. AYA世代の乳腺疾患

AYA 世代の乳腺疾患は線維腺腫、嚢胞、乳腺症といった良性疾患が主であり、実際に、全乳がんにおける AYA 世代 (40歳未満) の乳がんの割合は約6～7%と言われている。また、この年代は生殖可能年齢でもあり、妊娠・出産に伴う乳腺変化が見られるのも特徴的だ。

AYA世代(15～39歳)の乳腺の特徴と画像診断

1. AYA世代(15～39歳)の乳腺の特徴

AYA 世代の中でも、思春期の乳腺は発達過程による大きさの左右差があることが多い。若年成人期になるにつれ、乳腺は発達し左右差は減っていく。乳腺組織が豊富で、月経サイクルにより血流が異なることから、各種検査の際はその点に留意する必要がある。

2. AYA世代に対する乳房精査のモダリティ選択と注意点

AYA 世代の乳腺は、上記したように高濃度乳房の頻度が高いこと、月経サイクルによる乳腺血流量の変化があることから、診断や読影に際し留意を要する。

表1 AYA世代の罹患率が高いがん種順位
(国立がん研究センターがん情報サービスより引用)

| | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---------------|----------------------|----------------------|---------------------|---------------------|------------|
| 0～14歳 (小児) | 白血病 (38%) | 脳腫瘍 (16%) | リンパ腫 (9%) | 胚細胞腫瘍・ 性腺腫瘍 (8%) | 神経芽腫 (7%) |
| 15～19歳 | 白血病 (24%) | 胚細胞腫瘍・ 性腺腫瘍 (17%) | リンパ腫 (13%) | 脳腫瘍 (10%) | 骨腫瘍 (9%) |
| 20～29歳 | 胚細胞腫瘍・ 性腺腫瘍 (16%) | 甲状腺がん (12%) | 白血病 (11%) | リンパ腫 (10%) | 子宮頸がん (9%) |
| 30～39歳 | 女性乳がん (22%) | 子宮頸がん (13%) | 胚細胞腫瘍・ 性腺腫瘍 (8%) | 甲状腺がん (8%) | 大腸がん (8%) |